

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書①

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 評価する領域・分野	◇学校経営		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	池田高校は、揖斐郡内・神戸町を中心に5キロ圏内より約8割の生徒が通う地域性の強い高校である。穏和な生徒が多く、保護者も学校の教育活動に協力的である。池田町や近隣地域の教育機関との連携を深め、地域創生の核となる高等学校づくりに努めている。 生徒・保護者対象のアンケート（7月実施）では、本校の教育活動に対して肯定的な評価を得ている。特に社会規範を身に付けるための指導や成長の糧となる学校行事やボランティア活動に対する評価が高い。さらなる生徒一人一人に対する指導の充実が求められている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇池田高校の中長期的な将来を見据えたビジョンの明確化と池田町や近隣地域の教育機関との連携を深め、地域創生の核となる高等学校づくり。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 企画委員会、各種委員会及び職員会議 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) 学びへの挑戦 授業改善、少人数指導、進路希望に沿った多様な科目選択の設定、英語検定や漢字検定、体験的な学習等</p> <p>(2) 部活動・学校行事・ボランティア活動への挑戦 外部人材の活用等、地域と連携し学校の活性化</p> <p>(3) ユネスコスクール(ESD)への挑戦 「Global Welfare(地域・国際社会の中でよりよく生きる)」をキーワードに、「福祉」、「国際」、「環境」を3つの柱としてESD(持続可能な開発のための教育)を推進</p> <p>(4) 地域連携による活力ある学校づくり 学校運営協議会を設置し、学校と地域社会を繋ぐ活性化策の検討、実施役割分担の調整等</p>	<p>(1) 生徒・保護者等を対象とするアンケート結果、進学や就職等の進路状況</p> <p>(2) 生徒対象の生活アンケート(迷惑調査)結果、部活動の成績や学校行事での生徒の活動状況、地域行事、ボランティア活動への参加状況</p> <p>(3) 学校関係者評価委員会による評価、地域からの評価</p>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<p>(1) 学びへの挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングを念頭に置き、ICT機器を活用した授業改善 少人数・習熟度別指導、生徒の興味関心や進路希望に応じた多様な選択科目の設定 習熟度の高い生徒への放課後補習、成績不振者への補充指導等の学習支援、生徒の実態に応じた面接指導 職業別ガイダンス、学校別・学部・学科別ガイダンス等のキャリア教育の充実 学習習慣の確立(欠席過多、時間厳守) 総合的な探究の時間の指導の充実 	<p>① 一人一人の生徒に応じた指導と進路実現ができたか</p> <p>② 所属意識を高め、</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>	

<p>(2) 部活動・学校行事・ボランティア活動への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍における各種行事の充実（学校行事の工夫） ・ 生徒会の主体的な活動による学校行事の活性化 ・ 部活動活性化のための環境整備（外部講師等） <p>(3) ユネスコスクール（ESD）への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍におけるボランティア、福祉教育などの充実 ・ 池田町、保育園、小中学校、特別支援学校、専門学校や福祉施設と連携した福祉教育、国際教育、環境教育の推進 ・ 生徒会、家庭クラブ、ボランティア会、MSリーダーズ、科学部等の生徒の活躍によるESDの推進 	<p>③ 生徒の主体的な活動を実現できたか。</p> <p>④ 地域と連携しながら池田高校の方向性を明確にし、行動することができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
---	---	-----------------------------------

<p>11 成果・課題</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で、多くの行事が影響を受けたが、文化祭・体育大会については、職員会議等で何度となく検討を重ね、生徒の意見も聞きながら、文化祭・体育大会については規模を縮小しながらも行うことができた。高校生の感染者が他校でも現実となった時期であったが、本校の文化を来年度以降も繋いでいくという命題に対して、文化祭・体育大会を行えたことは本年度の大きな成果であった。 ○ 体育館での集会等も感染対策上できないため、WEBをつかった集会が一般的となった。3年生は、受験制度の説明を親向け・生徒向けにそれぞれ行ったり、1年生には、高校生活の決まりをオンラインで行ったりした。 ○ 生徒の遅刻・欠席については、コロナ禍ということで安易な休みが増えるのではないかと危惧されたが、思いのほか崩れず登校ができていたようだ。コロナ禍においても各自が健康に気を付けよく努力した結果であった。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
-----------------	---	------------------------------

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>地域連携による活力ある高校づくりが本校のテーマであるが、コロナ禍で各種行事の中止が相次いだ。現在のところ感染状況は悪化の傾向にあり、当面は感染予防対策を優先するが、コロナ禍でも実施可能な方策を検討し、学校教育目標の達成と学校文化の継続と発展に努力する。</p> <p>(1) 学びへの挑戦</p> <p>ICT環境はハード面の整備がほぼ完了した。今後は、ICT機器をツールとし活用するとともに、学習支援ソフト（Metamoji）等を用いた個別最適化学習について研究を深めていく。このことは令和4年度から始まる新学習指導要領が求める学びについて、各教科・科目の特性を活かした授業改善へと繋げていくこととする。またユネスコスクールとして、授業や行事の中にESDやSDGsとの関りを明確化する方策を講ずる。</p> <p>(2) 部活動・学校行事・ボランティア活動への挑戦</p> <p>いずれも本校の特色として地域へのアピール効果は高い。教員の過度な負担とならないよう配慮しつつ、生徒が主体的に運営できる方策を検討（部活動の統廃合や行事の精選も含む）する。</p> <p>(3) ユネスコスクール（ESD）への挑戦</p> <p>ユネスコスクール本来の目的である、グローバルな知見の育成とローカルな取組を目指し、主要な「福祉」「国際理解」「環境」について、コロナ禍でも持続可能な活動を検討する。また、すべての教育活動について、SDGsの具体的な17の開発目標との関りを明確に意識する。</p> <p>(4) 地域連携による活力ある学校づくり</p> <p>『総合的な探究の時間』の運営方法を見直し、課題解決型の探究活動を中心に、地域の課題について考え、その解決策を検討、提案する取り組みを模索する。また、キャリアプランナーによる地元企業との関りを活かし、地域課題の解決のための連携窓口として機能させる。</p>
--

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月2日

<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回初めてユネスコスクールについて知った。大変興味深く、良い取り組みだと感じた。 ・ ユネスコスクール(ESD)への挑戦として、「福祉」「国際理解」「環境」の重要性を念頭におきながら、それを実現するための「地域連携」の重要性を掲げている事が大変すばらしいと感じた。 ・ 池田高校は近隣地域の子どもたちが誇りや憧れをもって通う学校として大きな評価を得ている。ユネスコスクールへいち早く取り組み承認されるなど、活発な活動は他の学校にも影響を与えた。地域社会の福祉、環境、町の行事などへ参加する生徒たちの真摯な姿は、将来を担う若者として期待できる。

- コロナ禍においては、行動制限されるのはいたしかたない。感染予防できる策を考え、ICT 利用が最善だと思う。できるだけ顔の見える策を取って頂きたい。
- 地域創生の核となる学校作りに期待している。2030 年に向けて、ユネスコスクールとして、地球規模の問題に対して生徒の意識改革を求める。
- コロナ禍における学校行事の苦勞がよく分かる。そんな中においても生徒の意見を大切にしていることを中学校でも実践していきたい。
- コロナ禍の中ではあるが、中止を前提として行事を考えるのではなく、「生徒と共に創り上げる」という池田高校職員の熱意に頭が下がる。学校経営の中核に「SDGs」を位置付けるなど、今日的な課題を見据え、明確な意図、方針のもと進められる学校経営を参考にしたい。
- 全体を通して、生徒に寄り添いながら、しっかり取り組んでいると感じる。今後とも神戸町との連携をよろしく願いたい。